

◆◇踏み切り事故被害者のご子息から記者クラブに送られていた文章◆◇

2016.3.4 のフェイスブックより ・ [いいね! 582 シェア61件](#)

3月1日の新聞テレビには「徘徊」という言葉があふれました。

辞書でひくと、「目的もなく、うろうろと歩きまわること」とありますが、これは事実と反しています。

鉄道事故で亡くなった男性のご子息は、判決が出る前に、メディアの人々に次のような文章を配って、この言葉を使わないようにと遠慮がちに求めていました。けれどほとんどのメディアは、無視してしまいました。素晴らしい文章なので、引用させていただきますね。

——*★*——*

たくさんの報道に接し、大変勇気づけられましたが、「徘徊した」との表現に少し違和感を持つようになりました。父が自宅玄関からいなくなった2回とも、父が生まれ育った実家の方向に向かっていました。

「実家に行こう」という目的を持って歩いていたはずです。

父はそれまで必ず戻っていた事務所出入り口から初めていなくなり、事故に遭遇しましたが、この時も何か目的を持って歩いていたはずです。

徘徊というと、無目的で歩き回るようなニュアンスがありますが、そうではありません。

一人で外出したものの道が分からなくなって帰れなくなったに過ぎません。

従って、決して危険な行動ではありません。単なる「一人歩き」です。

——*★*——*

事前にこのような文章が配られ、認知症ご本人のワーキンググループも、このことばを使わないコメントをだしているというのに、一面に「徘徊」というミダシを、デカデカと掲げた社もありました(涙)

「徘徊」という言葉を使わなくても、優れた記事を書くことができる。それを証明した記事のひとつを紹介させていただきますね。筆者は、認知症にまつわる連載で新聞協会賞を受賞した毎日新聞の銭場裕司さんです。



[認知症男性JR事故死:「負けられない」1日に最高裁判決 - 毎日新聞](#)

愛知県大府市で列車にはねられ死亡した認知症男性(当時91歳)の遺族がJR東海に損害賠償を求められた訴訟の最高裁判決が3月1日に言い渡されるの…

mainichi.jp

以下を書き込んだ丹野さんと藤田さんは
認知症のご本人です。



[丹野 智文](#) 由紀さん、本日この記事を書いた銭場さんに会って話をしました。

そしたらこの由紀さんのフェイスブック、びっくりしています。徘徊という言葉や患者という言葉を使わなくても文章は書けると言われていました。素晴らしいと思いました。



[藤田 和子](#) そうですよ。メディアの力はおおきいと感じています。

皆が心から認知症の人の気持ち、目的を持って行動しているのだと理解してくださればだんだんその言葉を使うことに違和感を感じてくるのかなと思います。

本人視点に立った考え方が広まればいろいろと変わってくるのではと思います。

家族の方からこのようにコメント下さるとうれしいです。